

# スマイル通信

第11号 平成20年10月24日発行

発行元: 特定非営利活動法人スマイルネットワークさかい

理事長: 田崎 健治

住所: 〒919-0541 福井県坂井市坂井町東 24-22

Tel: 0776-72-2282 Email: koryuctr@mx3.fctv.ne.jp

## 大関地区まちづくりの一步(あいさつ運動から)

坂井平野の真中に位置、大関友遊館のお隣で活動していますスマイルネットワークさかい(元大関公民館)は、いつも和やかな雰囲気、大きなお声の先生と抱き合う姿に励まされて、楽しくお付き合いの機会を頂いています。昼休みのひと時、学童保育と夢づくり事業についてお伺いした時、田園風景を活かした、あいさつを交わす明るい話題づくりが始まりになりました。



坂井市は、公民館単位で導入を進めています住民の手による「まちづくり協議会」について、昨年より全地区において準備に入りました。日々、公民館を利用させていただく方々と話し合い、問いかけていますが、疑問を感じました。お隣の専務理事(事務局長)さんとの素朴な会話の中で、大関地区の住み心地は…。友遊館は…。気軽に入れるのが一番ですね、先ず、あいさつ運動から一步前に進みましょうと応援頂き、準備作業に着手いたしました。

本年の7月13日、大関地区の『大関まちづくり協議会』設立総会を開催する運びとなりました。地区のまちづくりのテーマ「～やっぱ いいなあ 大関～」をあいことばに、公民館活動も微力ですが役に立ちたい思いを募らせている今日です。

スマイルネットワークさかいの基本理念『夢の持てる地域活動支援センター』は我が大関まちづくりの指標にさせていただきました。夢づくり(スマイル農園)推進事業の展開には、大変なご苦労があると思いますが、子ども達の成長と活動を創造するときの風景は、すばらしい光景が浮かび上がります。

学童保育の居場所と地域のコミュニティの拠点として、親睦と交流の場づくりに地区の皆様と歩調合せ取り組んでまいりたいと思います。

今後とも、公民館活動と共に、スマイルネットワークさかいの運営・発展のために関係各位のご尽力とご指導をお願い致します。



友遊館館長 浦井 成男

## いもほり&おたのしみ会 9月28日



うわ～、いっぱい  
れたよ!



たくさんの方が参加されたいもほり会。黙々とほり続けている子、大きな芋を探している子、土と戯れている子、様々でした。その後センターに戻り、歌あり、遊びありの劇を楽しみました。昼食は焼き鳥、焼イカ、農園の茄子、そして掘ってきたばかりのさつま芋をみんなでおいしくいただきました。(小林)



楽しいお話し  
聞き入っています

## 研修会のご案内

テーマ:

「いま家庭でできること・すべきこと」

講師:

富田 純子氏(坂井市保健センターでの療育相談員をはじめ、鯖江市および越前町での保育カウンセラーなど、保健・保育・教育と幅広い領域でご活躍なさっています。)

日時: 平成20年12月7日(日)

10:00~12:00

場所: 坂井町障害者交流センター2階  
※テーマにもとづいたお話をさせて頂いた後、後半は皆さんからの質問を受け付けて下さいます。

## 赤い羽根パートナーミーティングに参加して

10月29日福井県自治会館で赤い羽根パートナーミーティングが開催されました。分科会「障害者を応援する活動」の課題提供者に指名されお話しさせていただきました。

平成18年4月に開設し平成19年4月にNPO法人の認証を頂き、今年度坂井市の指定管理者として3年目に入っています。

現在障害児学童保育として、17名の児童が週に1～5回利用しています。当施設は立地条件がよく地域の方々のご理解により利用者は順調に推移しています。平成21年度は登録人数22～25名、年間利用延人数3,000人を予定しています。

設立当初から、障害児学童保育の延長線上に、障害児が学齢期を過ぎ生涯生活するであろう地域の中で、幼い頃から馴染み深いところに居場所を作りたいと考えていました。できて間もない私共にとって「実績がない」ことが色々な意味で尾を引き、なかなか思うように前に進めませんでした。そのような中で、昨年度共同募金会様のステップアップ事業に取りあげて頂き、確実に活動の新たな第一歩を踏み出すことができました。これをきっかけに新しい障害者の共同作業所に育っていったらと、夢も大きく持てるようになりました。これもひとえに共同募金会様の後押しがあったからこそだと思っています。

私共の施設は大関地区の公民館の跡を全面改装して頂き、大変立派な社会資源に生まれ変わりました。大関小学校と新しい公民館の間に位置し、大関小学校が3年間福祉協力校になっている縁もあり、6年生の授業の中で私共の学童と交流をもって頂いています。今年度も昨年度に引き続き七夕交流と称し、ゲームや劇をしてくれたり、七夕飾りを一緒に作ったりしました。

その短冊の中に、大変心温まる短冊がありました。利用している3年生の弟を思いながら、5年生のお兄ちゃんが「弟が早くしゃべれますように」と書いた短冊を寄せてくれました。これを読んだ多くの人たちが感動し、私もその中の一人としてこの気持ちを伝えようと「お兄ちゃんの願いは必ず天まで届きます。職員も一生懸命支えています」と手紙を送ったところ返事がきました。その中身は「弟からお兄ちゃんと呼んでもらいたい、今まで話をできなかった分いっぱい話をしたい」と書かれてありました。今、障害児をとりまく話題は決して明るいものではありませんが、あらためて家庭でのごく日常生活の中にこのような素晴らしい出来事があるのだと再認識しました。

最後に、共同募金の助成を受けることにより広く活動を知って頂くことができ、また「責任とやる気と元気」が出てきます。まだまだ助成を必要としているところも多いと思いますので、今後ますます連携が大切になってくるのではないのでしょうか。

黒坂 輝雄

## 蓮の前でパチリッ

弥生時代以前のものでされる古代の蓮「大賀蓮」毎年夏になると、朝早くに花開き、昼には閉じてしまい、花の命は3日間。その大賀蓮を育てている坂井町の伊藤さんに立派な蓮を見せていただきました。



## 青空教室

9月7日坂井町の屋内スポーツセンターで行われました。風船アートでお花を作ったり、ぼんよの歌を歌ったり、円陣ダンスをしたり賑やかに過ごしました。いくつかの種目を行い、ラストにはおかしのつかみどりが待っています。中には、その一回では満足できず、もっとやり



たい！と意気込んでいる人がいたり、つかんだおかしを早々と食べている子もいました。（小林）

## 宿泊研修報告

10月4日～5日に開催された坂井市心身連主催の宿泊研修(県立奥越高原青少年自然の家)に3家族、職員の計9名が参加しました。2日間とも天候に恵まれ、他町の人たちとバーベキュー、バードコール、アイスクリーム作り、プラネタリ

ウム見学など盛り沢山の自然学習体験をしました。

(黒坂)



### ●編集後記●

いい季節になりましたね。朝、ぐっと冷え込むと起きるのはつらいのですが、昼間の秋晴れを思うとちょっとの我慢ですね。さあ、今日は何をしようかな、とやる気を起こさせてくれる季節です。（智）